



カリアンナイトで好みの店を巡る参加者

## ◆沿革

刈谷市は、歴史的には、古くから城下町として商業、農業を中心に繁栄してきた。そして、明治時代に国鉄刈谷駅(現JR刈谷駅)が設置され、交通の要所として地方商業都市へと発展し、大正末期の豊田自動織機の誘致の成功がきっかけとなり、日本有数の自動車工業都市へと変化を遂げた。

刈谷市刈谷駅前商店街は、元々は現在の桜町通り商店街の一部であったが、刈谷駅周辺地区に工場が増えるにつれ商店街に訪れる人の数も増え、それに伴い飲食業やサービス業等の個店も増え、商店街が大きくなったため、昭和54年、桜町通り商店街を二つの組合に分けることとなり、刈谷駅周辺を刈谷市刈谷駅前商店街振興組合として分離し設立した。一方、企業城下町という地域特性から飲食店・居酒屋・スナック等の集積が進んだことで、「夜の街」というイメージが強くなってしまい、女性や子どもが気軽に足を運べる商店街とは言い難いものとなった。

こうした課題を踏まえ、平成13年に策定された刈谷市の中心市街地活性化基本計画に基づいて、パ

ルイベントである「カリアンナイト」の実施や商店街に幻想的な明かりを灯す「アクアモールイルミネーション事業」等、多くの取組を生み出してきた。

以下では、刈谷市刈谷駅前商店街が取り組む「カリアンナイト」をご紹介します。



飲食店・居酒屋・スナック等が集積している

## ◆商店街を取り巻く環境

刈谷市刈谷駅前商店街は、JR・名鉄刈谷駅を中心に南北に広がる複数の商店街のうちの1つである。刈谷駅を中心に西に複数の大企業が立地しており、こうした地域特性から、当商店街には飲食店・居酒屋・スナック等が自然と集積していった。

現在の商店街は、飲み屋等を含めた飲食系の個店が7割以上で、物販の店はほとんど無く、近隣に点在している大型ショッピングセンターがそれを担うような形となっており、商店街との棲み分けがされている。夕方から帰宅途中のサラリーマンで賑わっているが、その一方で「夜のまち」というイメージが強くなるなど、商店街のイメージの固定化が進んでいるのが現状だ。



夕方からは帰宅途中のサラリーマンで賑わう

## 取組

## カリアンナイト



イベント

## ◆取組を開始したきっかけ

当初、商店街では「この地域は、企業城下町であり多大な恩恵を受けているのだから働く人を応援するまちにしよう、それには飲食が中心の方が良い。」と意見があり、平成11年に方針を決めて「働く人を応援するまち」をキャッチフレーズとする飲食を中心にしたまちづくりを始めた。そして、平成13年に策定された「刈谷市中心市街地活性化基本計画」で刈谷駅前周辺地区が「都心交流エリア」に位置づけられたのをきっかけに、ワークショップを開催

し、グルメマップの作成、地域情報誌の発行、風俗店との懇談会の設置など、昼も夜も歩いて楽しい健全なまちを目指して様々な商店街活動に取り組み始めた。

後に、独自で勉強会等を開き、平成20年にはパルイベント開催の先駆けである北海道函館市のバル街を視察し、その賑やかな光景に感銘を受け「カリアンナイト事業」に着手した。

## 取組の概要 &gt;&gt;&gt;&gt;

「カリアンナイト」は平成20年から刈谷市刈谷駅前商店街と刈谷市桜通り商店街が主催者となり、年2回(初夏、初冬)実施されているイベントで、5店舗をハシゴできる一夜限りの大規模な「バル」(飲み歩き)イベントである。1セット3,500円(700円×5枚綴り)で販売されているチケット(お得な「前売券」は参加店及び協力店、又はネット販売により購入可能)を利用し、刈谷駅周辺の居酒屋・スナック・レストラン等約50店舗の参加店から5店舗を自由に選べ、ドリンク一杯とお店自慢の一品を楽しむことができる。

また、全て使い終わったチケットはお楽しみ抽選券となり、応募者へは商店街発行の商品券が当たる。当日チケットを使いきれなかった場合、後日、商店街での金券として使用することができる。

「カリアンナイト」は飲み歩き以外にも様々なイベン

トを企画している。例えば、「仮装deカリアンナイト」では、仮装して運営本部へ行くトヴォジョレーが振る舞われる。他にも「オールマルシェwithカリアンナイト」と題して、子どもから大人まで広く楽しめる多彩なジャンルの屋外コンサートを開催するなど、老若男女が参加できるものとなっている。また、周辺ホテルや名鉄と提携し、チケットの半券を利用した各種サービスや乗車券とのセット販売もある。



飲み歩き以外にも様々なイベントが開催される